

いとうまい子氏がiUの教授に就任 2025年度からプロジェクトを推進

iU（東京都墨田区、学長 中村伊知哉、<http://www.i-u.ac.jp>）は、俳優・経営者・研究者である、いとうまい子氏が2025年度から正教授に就任することを決定しました。

iUは「プロジェクト教授」と称する非常勤の正教授ポジションを創設します。学生や客員教員・研究員が参加するゼミを開設することを通じて産学連携プロジェクトを率います。2025年度までに総勢10名程度のプロジェクト教授を採用する計画です。

いとうまい子氏はその1名です（面白法人カヤックCEOの柳澤大輔氏、起業家・国際社会文化学者のカンハンナ氏、博報堂の堂上研氏の就任も決定しています）。

■ いとうまい子氏 プロフィール



俳優、研究者、経営者。株式会社マイカンパニー代表取締役、株式会社ライトスタッフ代表取締役。1983年芸能界入り。現在もドラマや映画、バラエティ番組に出演中。

2010年 早稲田大学入学。修士課程では「ロコモティブシンドローム」予防のための高齢者に役立つ医療・福祉ロボットの研究・開発を行う。博士課程では基礎老化学を研究。現在は早稲田大学大学院に研究生として所属、抗老化学を研究中。

2021年内閣府の教育未来創造会議の構成員に選任され、子供の教育の未来について提言。2021年株式会社タスキ社外取締役、2022年株式会社リソー教育社外取締役就任。

■ 担当プロジェクト「ヒューニング学」

ヒューニングとは、ヒューマン（人間）のチューニングです。

10億円のバイオリンでもチューニングされていなければ、本来の音を奏することはできません。同様に、人間もチューニングされていなければ、その人の本来の能力を発揮させることはできません。

皆さんの中に眠る無限の可能性を引き出し、自分自身に制限をかけているブレーキを外して、悩みから解放され、本来の自分の能力を存分に発揮するための学びを深めてもらいます。

■ いとうまい子氏のコメント

私は、18歳でアイドルデビューしましたが、自分の考え方と芸能事務所との考え方の違いから23歳で事務所を辞め、個人で事務所を立ち上げ一人で歩きを始めました。しかしそれは、自分らしさを見失う悪循環の始まりでもありました。誰にも相談できず、解決策も見つからず、地獄の10年間を過ごすことになったのです。自分一人で悩み考えながらも、数々の困難をなんとか乗り越えてきましたが、もし、当時の若い頃からヒューニングに気付いていたら、もっと早く、もっと楽しく、自分らしく生きられたのではないかと思います。

私たちは生きていけば人間関係でもビジネスでも様々な困難に遭遇します。でもね、その乗り越え方を誰も教えてくれないから、悩みが膨らんで辛い時間に押しつぶされそうになってしまうのです。

学生の皆さん、軽やかに生きられるスキルを身に付けて、一緒に人生を楽しみましょう！

■ iU 中村伊知哉学長のコメント



iUは「先生」と呼ぶのを禁止しているのですが、いとう教授は何とお呼びしましょう？

「では、まいまいさんで。」

はい。ブラウン管のトップアイドルが介護予防ロボットの開発者、抗老化学の研究者へと転身して、先端企業の取締役も務める。その知見を分けてほしい。

と就任をお願いしたら、iUでのプロジェクトはそれじゃない、「生きる方法」だという。潜在意識のチューニングだという。

まいまいさんのプロジェクト、若い諸君だけじゃなく、老若男女・社会人、みな関心がありそう。私も一緒に学びます！

<大学概要>

■大学・学部学科名

- ・大学名：「情報経営イノベーション専門職大学」 ※愛称「iU（あいゆー）」
- ・学部名：情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

情報と経営でイノベーションを起こす人材を育成する、デジタルとビジネスの国際大学。

AI、ソーシャル、web3、eスポーツ、デザイン思考、メディア、VR/AR、マーケティング、オタク、メタバース、セキュリティ……。プロジェクト授業、4ヶ月インターン、そして恐らく世界初の「全員起業」。

全員が起業に成功すれば就職率がゼロになるので、目標就職率ゼロ。 起業数42、起業増加率日本一。

だが多くは失敗する。失敗から学ぶ「失敗大学」。コンピテンシー：行動偏差値がトップ級。 結果、就職率97.5%。

連携企業800社、客員教員1000人。学生より教授のほうが多い、プロのコミュニティの中で学ぶ大学。

研究所「B Lab」をベースとして、地域DX、超校歌、超人スポーツ、ニューロダイバーシティ等86プロジェクトが走っている。

2025年度には、eスポーツの学習・活動・インターン・起業を行う「eスポーツコース」も設ける。

入学式、卒業式などイベントは学生が企画・運営。自分でつくる大学。デジタル1st。日本初のPC・ネットあり入試を導入。

理念は「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する」。

それ、おもしろい？ それ、あたらしい？

■学長



京都大学特任教授、東京大学研究員、デジタル政策財団理事長、CiPI協議会理事長、国際公共経済学会会長、日本eスポーツ連合特別顧問、理化学研究所コーディネーターなどを兼務。

1984年、ロックバンド「少年ナイフ」のディレクターを経て郵政省入省。MITメディアラボ客員教授、スタンフォード日本センター研究所長、慶應義塾大学教授を経て、2020年4月よりiU学長。

内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省などの参与・委員を歴任。

著書に『新版 超ヒマ社会をつくる—アフターコロナはネコの時代—』（ヨシモトブックス）、『コンテンツと国家戦略』（角川EPUB選書）など多数。

1961年生まれ。京都大学経済学部卒、大阪大学博士課程単位取得退学。博士（政策・メディア）。

■所在地

- ・本校舎：東京都墨田区文花1-18-13
- ・サテライトオフィス：東京都港区海岸1-7-1 東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー8階



左：本校舎
右：サテライトオフィス

- ・学生数：698名 ・専任教員数：27名

■教育理念

「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する。」

■ 学びの特色

「ビジネス」「ICT」「グローバルコミュニケーション」この3つが学びの柱

① 論理的思考で世の中に変革を起こす【ビジネス】

ビジネスの仕組みを理解し、マーケティング、マネジメント、財務、法務などの専門知識を学習
さらに、必修科目「イノベーションプロジェクト」を通じて、課題発見からビジネスプランの立案までを繰り返し学ぶことで、実践力を身に付ける

② 情報通信技術の可能性を知る【ICT】

急速に進化する世界で自身のアイデアを形にし、世界へ発信する力となるデジタル技術を身に付ける
プログラミングやデータ処理、ネットワークといった基礎技術から、AI、データサイエンスなどの最新領域をカバーするカリキュラムを展開

③ 国境を越えて世界中の人と協働する【グローバルコミュニケーション】

卒業後に現場で生きるビジネス英語を中心に、異文化理解、国際情報やグローバルビジネスを学び、ボーダーレスな共創・活躍を実現するための多角的な国際感覚を養い、英語でのビジネスピッチが行えるまでを学び、実社会で活躍できる人材を育成

全員インターンシップ×全員起業×オンライン学習

- ・インターンシップとリアルプロジェクト：1人640時間のインターン、実ビジネスの中でハンズオンのリアルプロジェクト教育を実施
- ・全員起業：必修科目「イノベーションプロジェクト」を通じて、全員が在学中に起業にチャレンジ。希望者には事業化まで伴走するプログラムや資金提供、大学の所在地を使った登記などをサポート
- ・オンラインを活用した授業サポート：自ら積極的に学ぶための環境を用意

■ 育成人材像

- ・ICTを活用する様々な業界・団体において課題を解決し、新たな商品・サービスやビジネスを生み出すことのできる人材
- ・ICTを活用し新たな商品・サービスやビジネスを生み出すことで、国際社会と地域社会の産業発展に貢献する起業家

【本リリースに関するお問い合わせ先】

iU 情報経営イノベーション専門職大学 TEL : 03-5655-1555 E-mail : info@i-u.ac.jp